

平成29年9月29日  
日本学術会議 土木工学・建築学委員会

知的創造と活動を喚起する環境としての大学等キャンパスに関する検討分科会

**提言「我が国の大学等キャンパスデザインとその整備システムの改善にむけて」**

## 1 現状及び問題点

本分科会が実施した全国の大学を対象としたアンケート調査においても、我が国の大学のキャンパスデザインは世界的にも競争力が低いと多くの大学が自己評価していることがわかった。大学に入ってくる学生の期待に対し、必ずしも応えられていない。入学してくる若い人たちの多くは、大学の空間に失望しているとの報告もある。これからの我が国の大学の戦略として、海外からの留学生を受け入れる視点からもキャンパス整備は重要である。我が国のキャンパス整備には過去多くの資金が投入されたにもかかわらず、大学らしさを時代とともに高めることに成功できていない。どちらかと言えば空地に建物を建設し、無秩序な環境に向かっている傾向が見られる。また、人口減少に伴い、学生数が減少する傾向にある中での再整備の課題もある。

## 2 提言の内容

我が国の大学ではキャンパス整備にあたって組織・システムの構築とキャンパスデザインについて次のような改善に努める必要がある。

### (1) キャンパスデザインの改善

- 1) 我が国の大学キャンパスは短期的な要請の中で、校舎・研究棟を増設してきたため、ややもするとまとまりのないキャンパスが作られる傾向にあった。学生数が減少する傾向にある中で、減築や再利用も考慮した再整備を、維持管理を含めた長期的なマスタープランに基づき計画的に進めていく必要がある。
- 2) 対外的発信力を増すためにも、わかりやすく、近づきやすいキャンパスデザインが目指されなければならない。多言語の表記、多文化を理解する環境整備等、ユニバーサルデザインの徹底を図るべきである。
- 3) 大学キャンパスは都市・地域との更なる連携を図るためにも、地域住民に開放する施設空間を整備すべきである。また、大学そのものが地域の顔として誇りとなり、観光拠点としても寄与するようにすべきである。
- 4) 大学キャンパスは都市における防災拠点という観点からも整備される必要がある。
- 5) キャンパス整備においては教育的にも、また国際的な技術の発信性という点からも、大学においてサステイナブルな技術、デザイン開発を推進することが望ましい。
- 6) 大学キャンパスは多くの学生の共同体験による教育の場でもある。学生の友情を育む場としての機能を持つ学生寮の整備は重要である。
- 7) 大学教職員、学生の異分野交流は、主に教室や研究室以外の廊下、広場、庭園等、

外部空間等のコモンスペースで展開される。それらをより充実させるべきである。

8) 大学キャンパスにおいては、それぞれの大学の歴史性、地域性を尊重しながら継承性が図られる必要がある。

## **(2) キャンパス整備にあたっての組織・システムの構築**

1) キャンパス整備には副学長に相当するキャンパスディレクターと、長期的視野に立つ検討組織が必要である。また、建設関係等の学内資源を有効活用すべきである。

2) キャンパス整備にランドスケープデザインの専門家を参加させるべきである。

3) キャンパス整備には地域との良好な連携が重要であるため、長期的視点に立った意思決定機関が必要である。

4) 我が国の大学キャンパスデザインを教育、研究、経営、資金を統括的に捉え、全国的に支援するキャンパス計画ネットワークが形成される必要がある。

5) 施設づくり及びキャンパス整備に新しい教育のあり方に対応した学生の積極的参加、参画を促進すべきである。

6) キャンパスの整備・運営についても、民間あるいは地域自治体との協同事業という形で外部資金の導入を積極的に進めるべきである。大学・国・地方自治体・民間等の連携を可能とする規則、法を含む社会システム整備も必要である。

7) 大学キャンパスを構成する建築・造園等のデザインレベルを向上させる必要がある。後世にまでも継承されうる、高いデザイン性、機能性をもつ施設・環境を実現する発注システムが採用されることが望ましい。

8) 大学の環境価値を高めるために、大学はキャンパス整備に関して様々な戦略を作成し、実行する必要があるが、その取り組みを大学認証評価等に反映するのが望ましい。